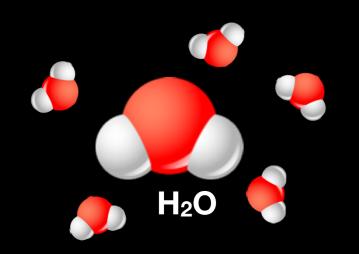
2016年1月29日(よみうり大手町ホール) スパコン「京」が開く科学と社会 シンポジウム 「スーパーコンピュータの今とこれから」

#### More is different!



#### "All things are made of atoms" by R. P. Feynman









アボドガロ数(10の23乗)程度の水分子の集まり

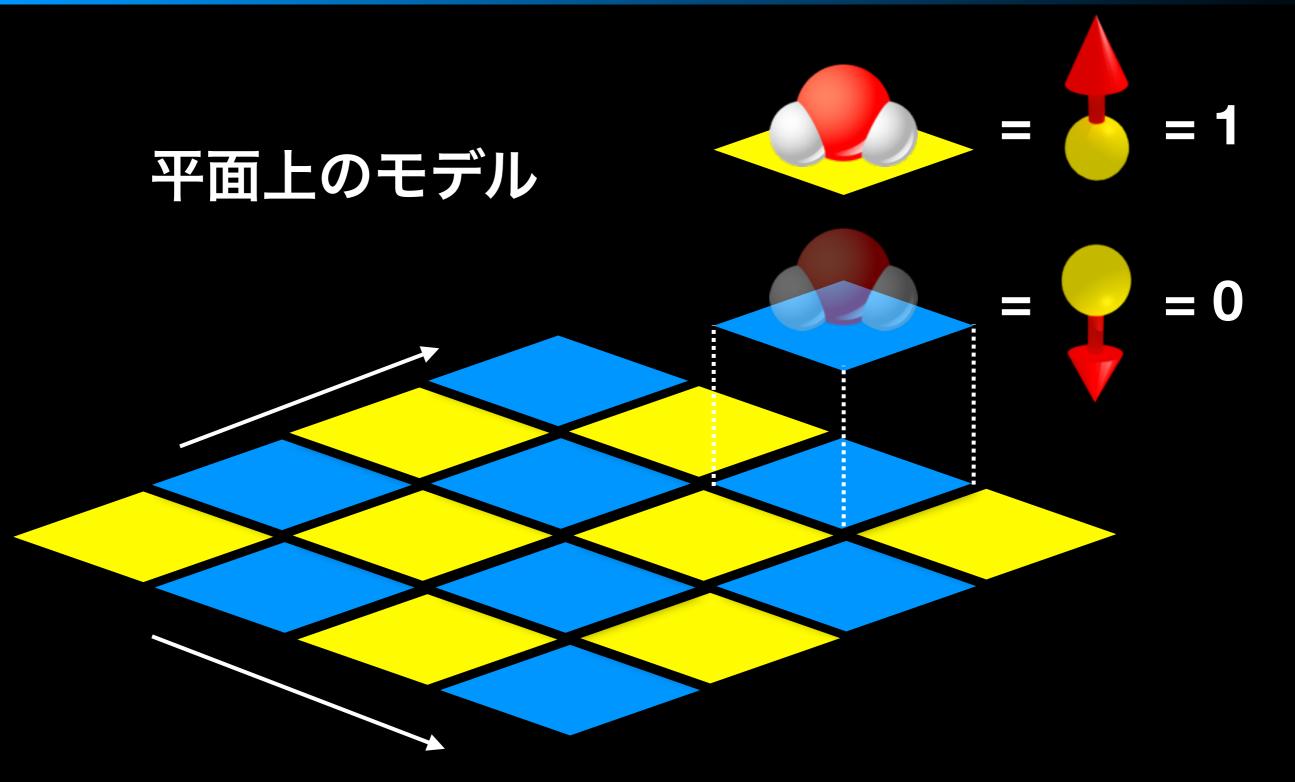
#### "More is different" by P. W. Anderson

多数の要素が集まると、基本的な法則からは自明でない新しい構造や性質が出現

- 相互に影響し、気、液、固相等の巨視的秩序
- 環境の変化による相転移現象

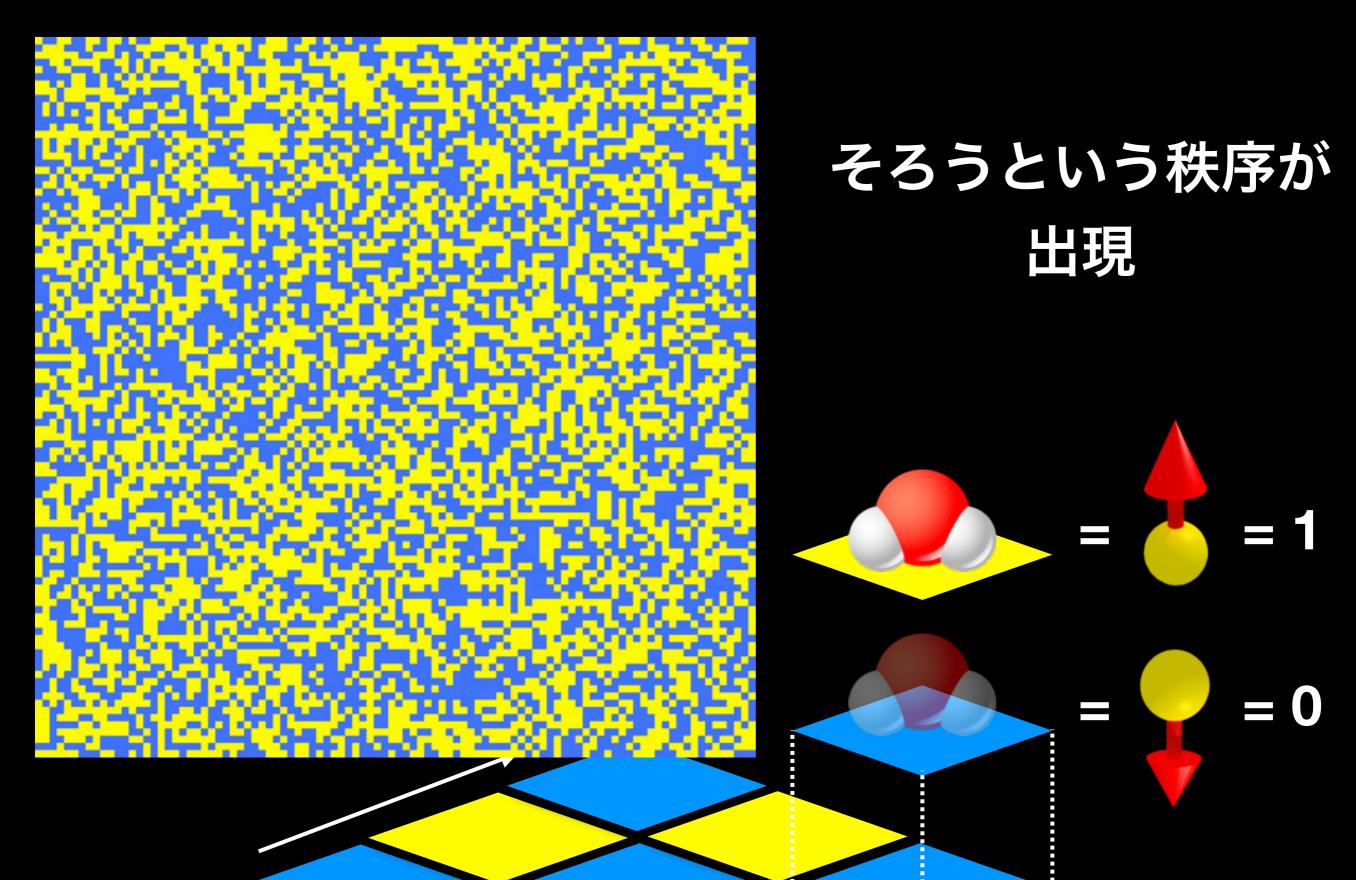
# 新しい秩序の出現





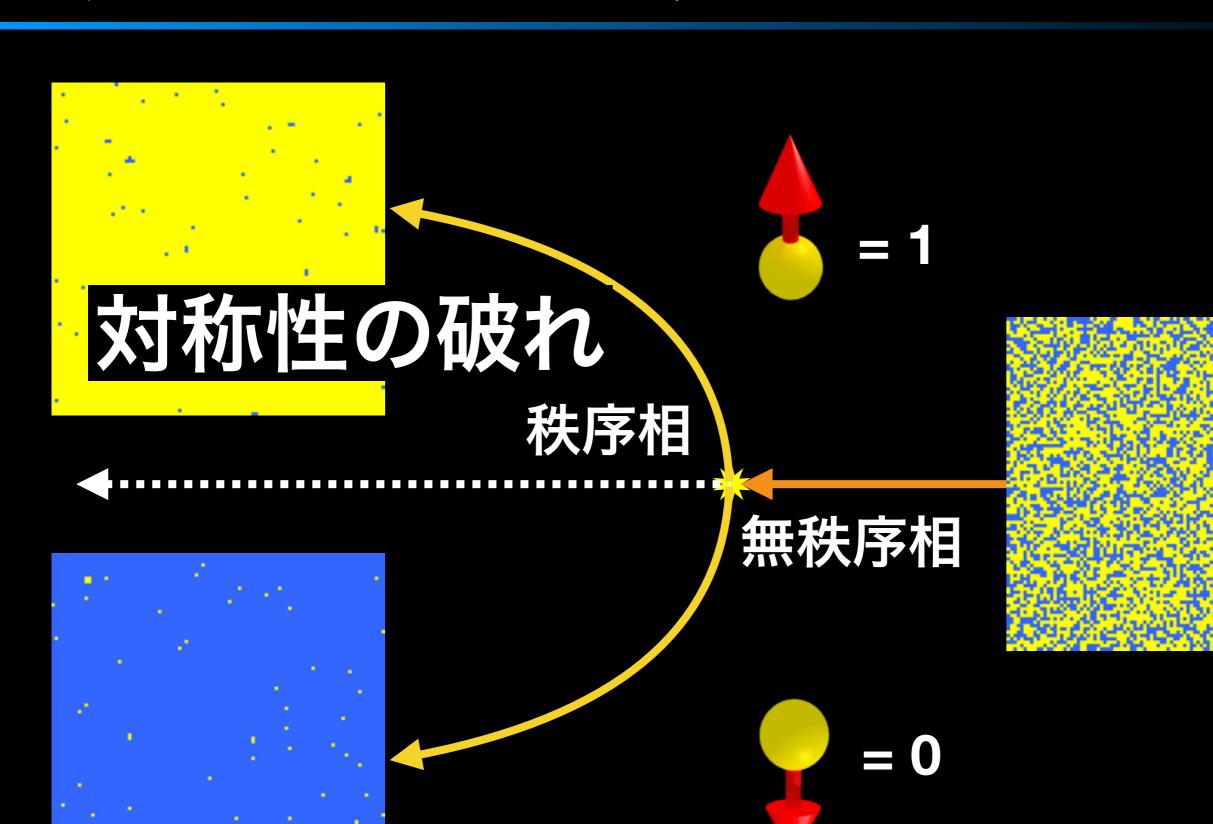
# 新しい秩序の出現





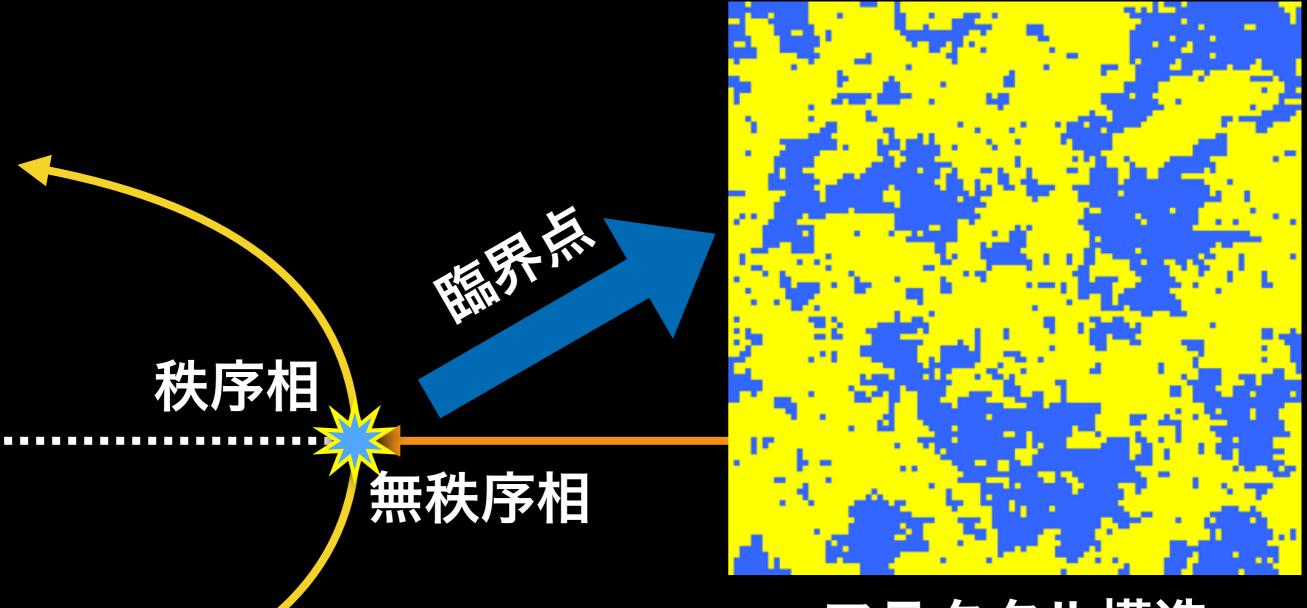
# 秩序相と相転移現象





# 臨界点でのスケール不変性





フラクタル構造

#### 階層を超えるスケーリング則の成立

例:クォーク~10<sup>-15</sup>m、電子~10<sup>-10</sup>m

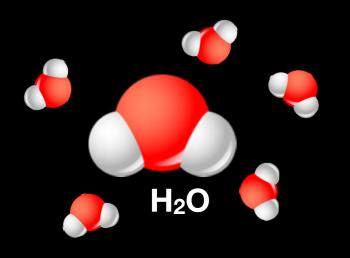
#### More is different!



#### "More is different" by P. W. Anderson

多数の要素が集まると、基本的な法則からは自明でない新しい構造や性質が出現する

- 多彩な秩序相:対称性の破れ
- 相転移現象:臨界点でのスケール不変性







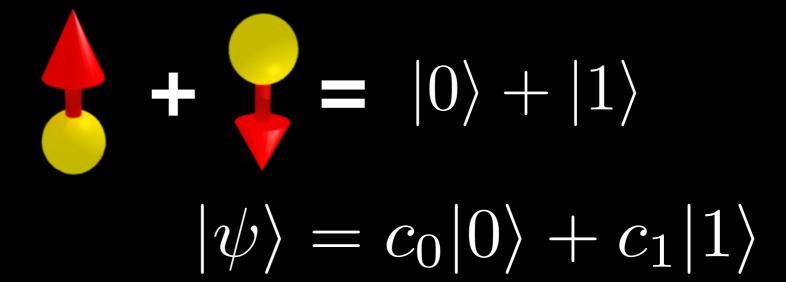


アボドガロ数(10の23乗)程度の水分子の集まり

## 量子性



■重ね合わせ状態



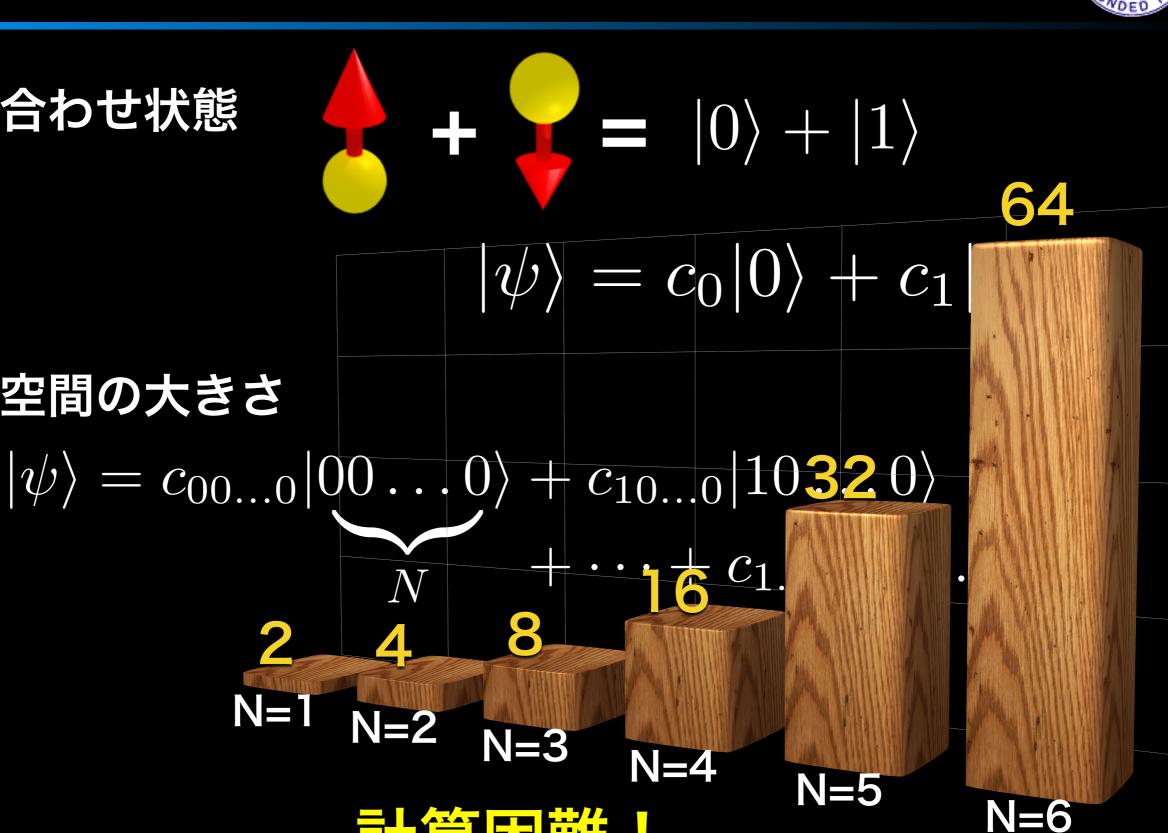
■状態空間の大きさ

$$|\psi\rangle = c_{00...0}|00...0\rangle + c_{10...0}|10...0\rangle + \cdots + c_{1...1}|11...1\rangle$$



重ね合わせ状態

状態空間の大きさ



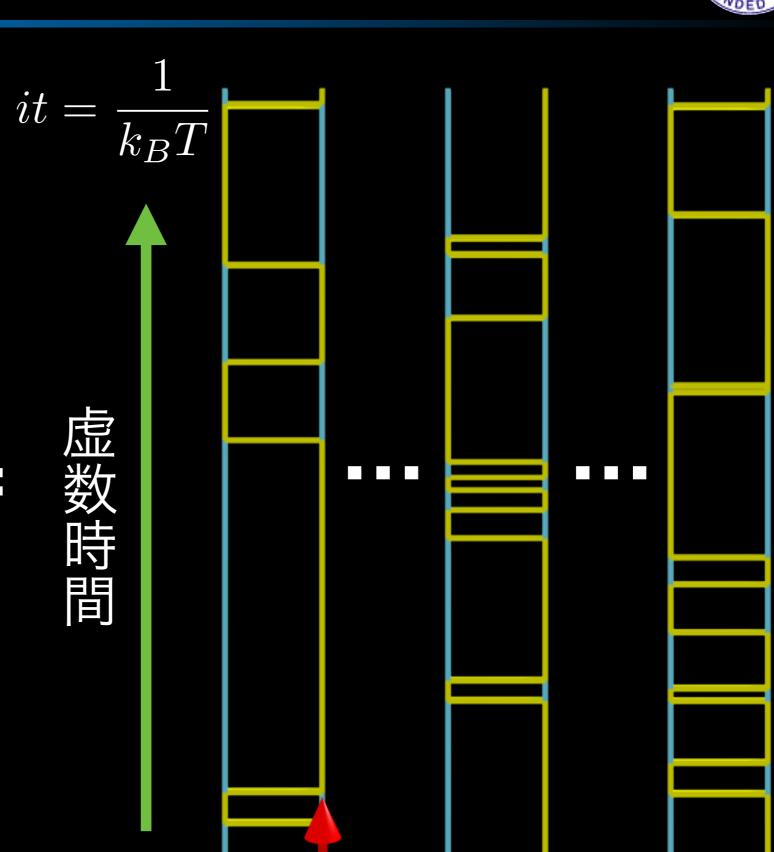
計算困難!

## 量子系を古典系のアンサンブルへ



■虚数時間の導入

d次元系→(d+1)次元



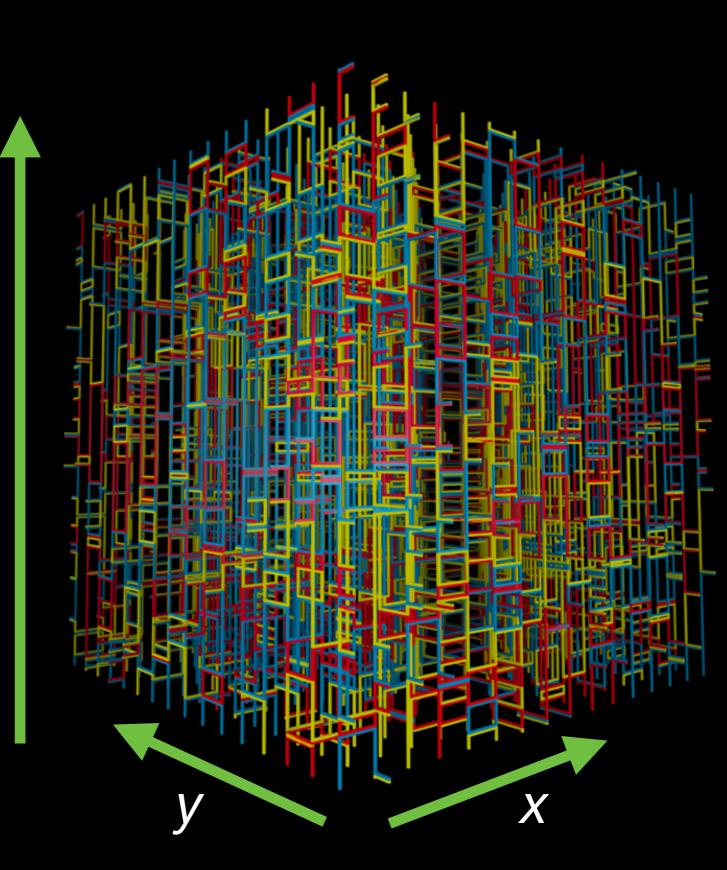
### 量子系を古典系のアンサンブルへ



■虚数時間の導入

d次元系→(d+1)次元

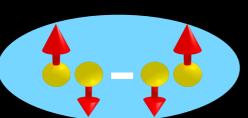
■量子モンテカルロ法 サンプリング平均 虚数時間

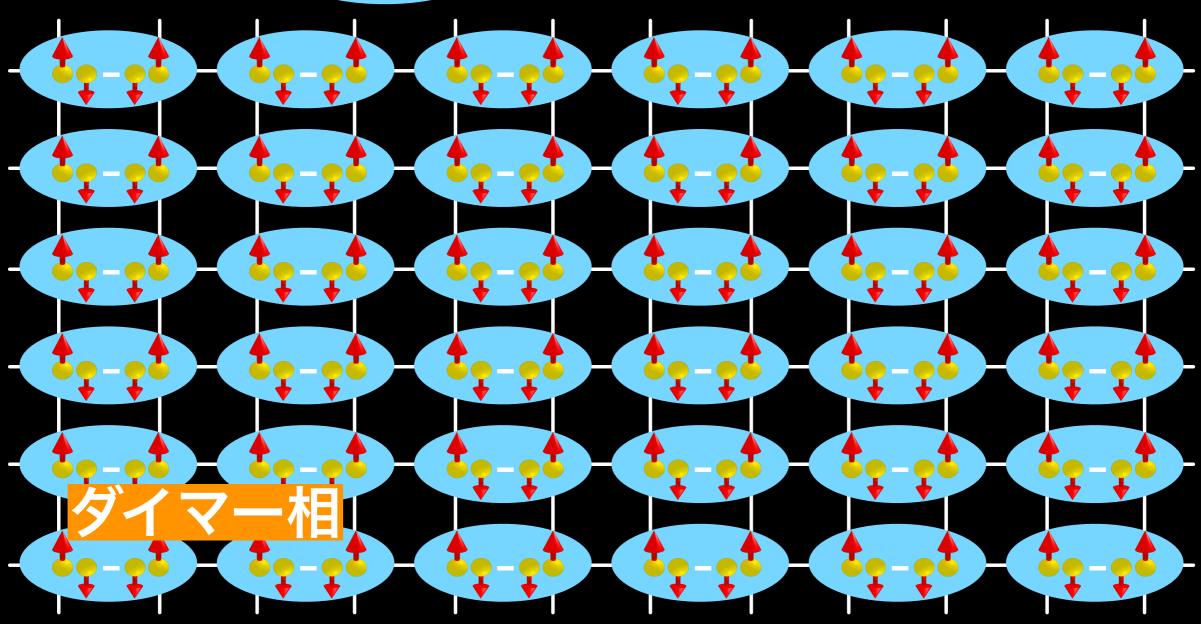


## 絶対零度における励起



■スピノン対

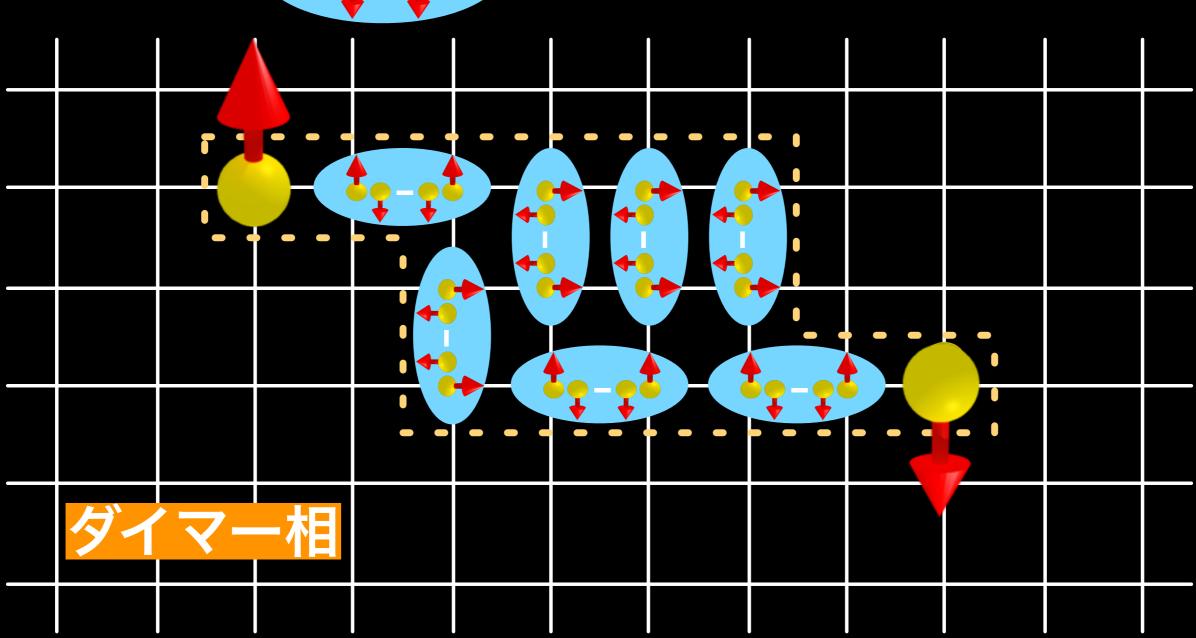




## 絶対零度における励起



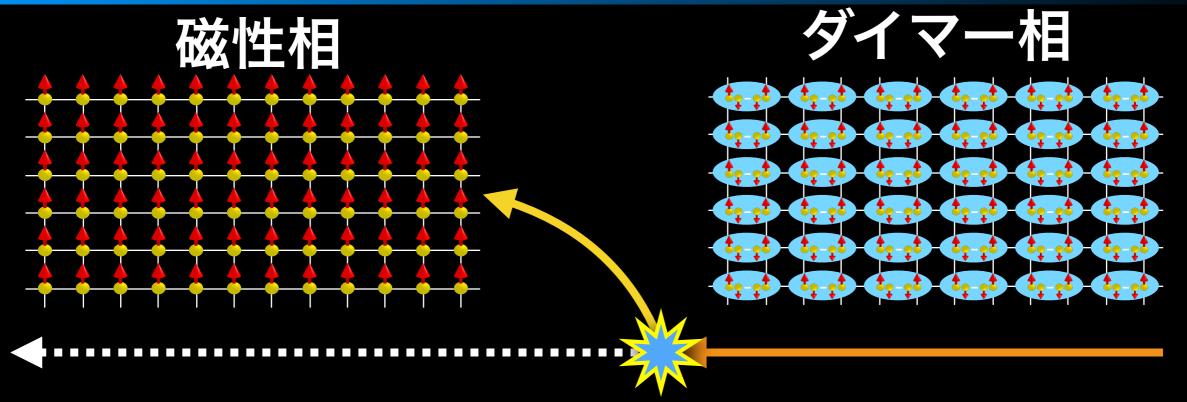




普通は対になっていて閉じ込められている

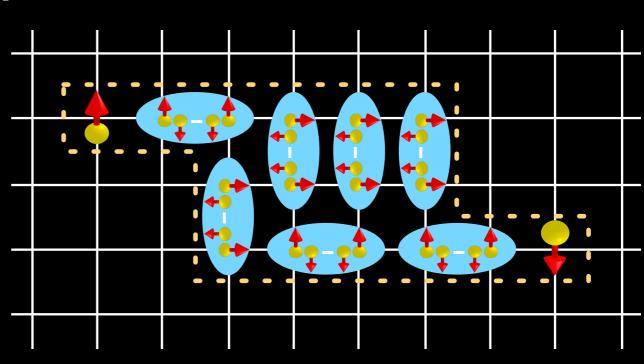
## 脱閉じ込め量子臨界現象





■ 臨界点でのスピノンの脱閉じ込め

Senthil, et al., Science 2004

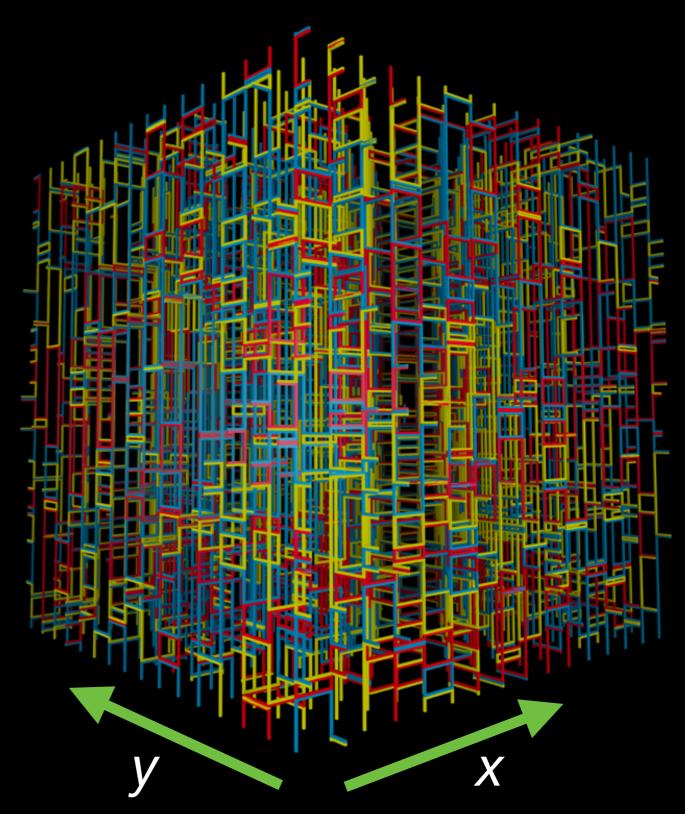


## 脱閉じ込め現象の再現



- ■量子MCシミュレーション
  - 臨界点のスケール不変性

虚数時間



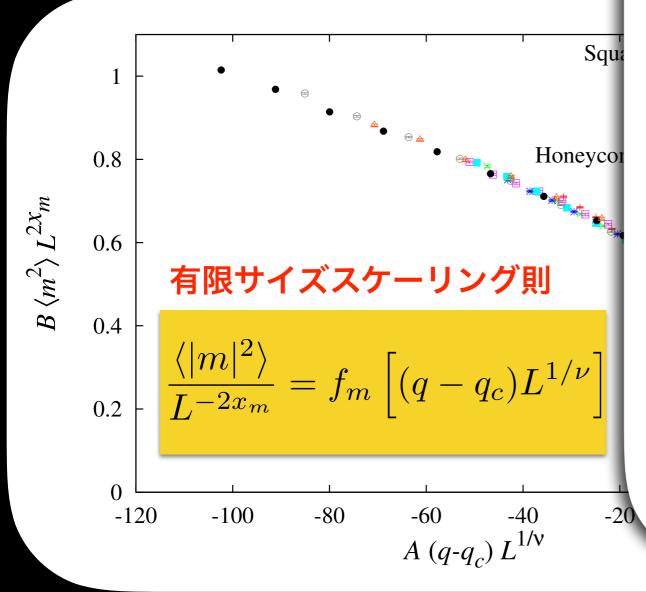
共同研究者:川島、藤堂、鈴木、大久保、渡辺、松尾

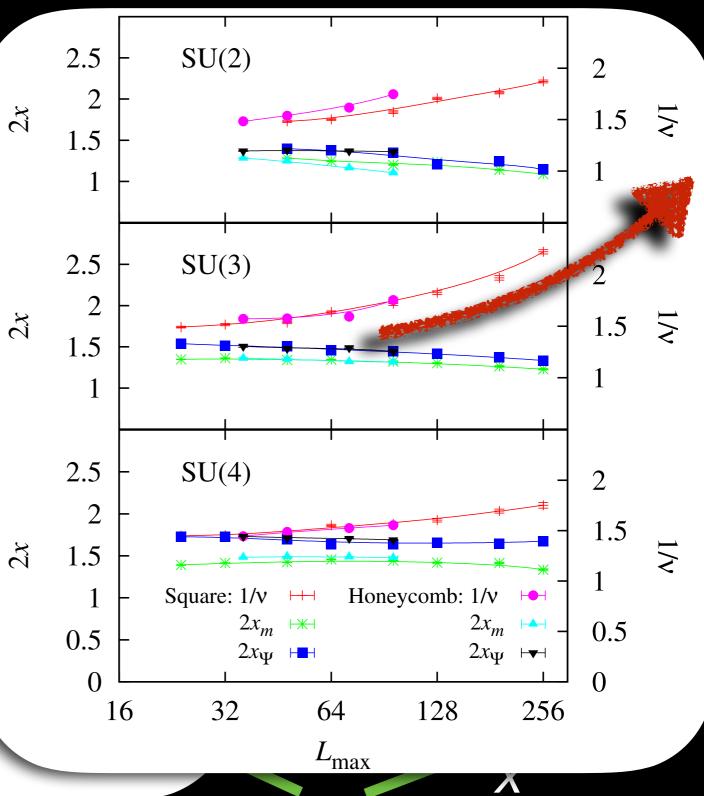
## 脱閉じ込め現象の再現





■ 臨界点のスケール不変性

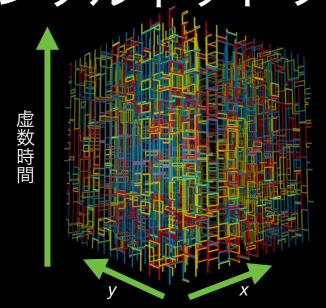


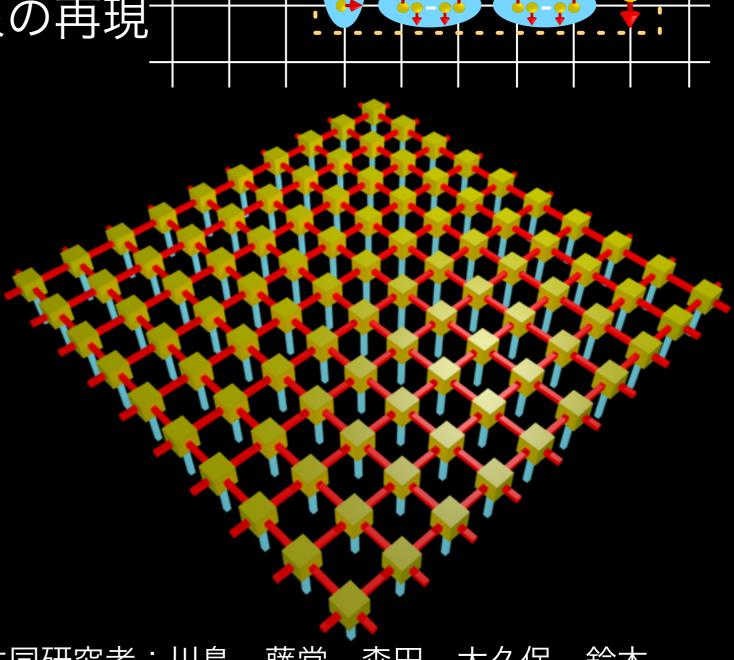


## まとめと今後



- "More is different" by P. W. Anderson
  - ●量子系の物性
    - 脱閉じ込め臨界現象の再現
- ■量子シミュレーター
  - ፟量子モンテカルロ法
    - 負符号問題
  - <u>る</u>テンソルネットワーク





共同研究者:川島、藤堂、森田、大久保、鈴木、